

原文雄先生を偲んで

鈴木 浩平

●東京都立大学名誉教授

2001年に創設された日本地震工学会の設立準備委員会の委員であられた東京理科大学原文雄名誉教授におかれましては数年来体調を崩して療養されていましたが、本年6月に永眠されました。享年84歳でした。

原先生は1970年に東京大学大学院工学研究科機械工学専攻課程にて工学博士の学位を取得されました。機械工学分野から地震工学へのアプローチを開拓された故柴田碧先生^{へき}の研究室の最初の学位取得者でした。先生は東京大学生産技術研究所の専任講師を経て、1971年に東京理科大学機械工学科の助教授に就任され、1983年に教授に昇任されました。その後、同大学において工学部長、理事など、大学運営の面でも重責を果たされました。

原先生の主たる研究分野は、機械力学、ロボティクス、メカトロニクスなどであり、直接的に地震工学に関与する研究論文などは多くはありません。

しかしながら、原先生は柴田碧先生の後継者として、機械工学、原子力工学の分野での耐震設計基準の策定、耐震技術の発展に多大の功績を残されました。代表的な業績として以下のものがあります。

1. 香川県多度津に設置された大型振動台を用いて1980年代に開始された「原子力発電施設の耐震信頼性実証試験」の大型プロジェクトにおいて、「非常用ディーゼル発電機」、「制御用大型計算機システム」の実証試験実施委員会の委員長として指導に当たられた。

2. 2001年から日本電気協会に設置された原子力規格委員会の副会長、会長として尽力され、特に東京電力福島原子力発電所の事故を受けた耐震設計基準の見直し、改定を進められた。

原先生は日本機械学会 (JSME)、アメリカ機械学会 (ASME) において、常に積極的に研究発展に尽力されました。JSMEでは、機械力学などの分野で先進的に活躍されました。ASMEでは2003年に日本人としては初の「PVPメダル」授与の栄誉を受けました。このメダルは、圧力容器、配管などの設計やそれに関連する各分野の研究、技術の国際的発展に貢献した人に与えられる最高の賞です。

また、JSMEとASMEとのJoint Conferenceの実現にも尽力され、そのConference Chairになりました。

JSMEでは、2002年に副会長にも就任され、同学会の名誉員になられています。2020年には瑞宝中綬章の授与の栄誉を受けられています。

私は原先生が大学院学生の頃から長らく親交を結ばせていただきましたが、先生の研究推進への真摯な姿勢、国際的立場での積極的な発言や問題提起などに大きな教訓をいただけてきました。過去にはご自宅の全焼火災や火傷など、私的にはいくつかの苦難を受けながらそれらを乗り越えてたくましく生きてこられた原文雄先生に心から敬意を表するとともに、安らかなご永眠を祈念します。

合掌



アメリカ機械学会のPVP (配管・圧力容器) 部門の最高の賞「PVPメダル」受賞の時
(2003年クリーブランドにて。左から1番目が筆者、2番目が原先生)